

訪問看護師による在宅療養者を対象とした災害時個別支援計画書の開発

佐渡本琢也1)、下久保亮太1)、徳永嶺1)、川島友梨香2)、下園美保子3)

1)テンハート訪問看護ステーション（名古屋市）、2)春日井市民病院（愛知県）、3)愛知県立大学

目的 訪問看護師による、在宅療養者の災害時個別支援計画書（以下、個別支援計画）の開発を本研究の目的とする。

方法 2018 年10 月～2019 年3 月において、A市内の訪問看護ステーション（以下、本事業所）1 カ所で個別支援計画を検討した。療養者における発災時のリスクを、生命維持に関連する「同居の支援者の有無」と「家屋倒壊の危険性」の2項目から4つに分類した。個別支援計画の検討項目は、文献等から抽出した項目を基に様式の原案を作成し、それを基に本事業所の利用者情報を用いて個別支援計画を試作しながら項目を精査した。なお個別支援計画の作成は、訪問看護ステーションの通常業務の一環として実施しており、個人情報の利用について利用者から同意を得ている。また個別支援計画の作成は、精査時に利用者の情報を活用したが、研究を公表する際には利用者の情報は使用せず、個人が特定される情報は含まれていない。

結果 個別支援計画書の分量はA 4 版両面1 枚、表面は利用者情報、支援者情報、家族状況、居住地の想定被害、避難場所、情報収集方法、災害用物品、予防対策を一覧表にした。裏面は地震発生時から二次避難所への避難決定までの時間経過に沿って検討・判断する事項と判断後の対応をまとめた。具体的には、『地震発生時』＜火災の確認、あなたの怪我の有無、震度の程度の確認＞、『避難行動』＜一次避難所への移動＞、『一次避難所での活動』＜避難生活を送る準備をする、家族や知人に連絡する、あなたの健康状態に変わったところはないか、電気・水道・ガスが止まっても生活できるか＞、『二次避難所の検討』＜二次避難所は倒壊しておらず生活できるか、自宅に移動することが出来るか＞、『二次避難所での避難生活』＜二次避難所の決定、実施、完了＞の4 の大項目（『』内）と11 の小項目（< > 内）に整理し一覧にまとめた（表2）。それぞれの項目に対して有無を判断し、問題が起こった際の対応を判断結果の隣に記載した。

表1. 個別支援計画のフェイスシート（表面）

項目	内容
利用者	氏名、生年月日、年齢、住所、電話番号
支援者及び支援体制	家族同居、家族別居、調整担当者、その他支援者
家族状況	上記以外の家族の状況
想定被害	震度、液状化、家屋倒壊、津波
避難場所	一次避難、二次避難
情報収集	手段
避難物品	発災時、発災時避難用、一次避難用生活持ち出し物品、二次避難用生活持ち出し物品
予防対策	日頃の備え、指導内容

考察 発災時から二次避難場所決定までを、可能な限り療養者自身で身を守るための考え方や手順などの対策を整理した。またその対策から導き出される予防対策についても検討した。更に、これらの対策等に関する必要な情報を、個々の状況に応じて最小限にまとめることが出来た。これらにより、以下の成果があった（図1）。

①利用者への成果

個別支援計画を利用者ととともに作成することにより、災害時の判断や対応を利用者が決定し、訪問看護師と共有できた。それにより利用者と共に被災時の動きや予防対策を具体的に検討することができ、検討した内容を看護計画に反映することができた。

②訪問看護ステーションへの成果

個別支援計画が、訪問の優先順位を決める根拠として活用できるようになった。さらに訪問看護ステーションとしてどのように対応していくかという運営方法が明確になり、事業継続計画（Business Continuity Plan）に反映することができた。また、個々への対応が明確になったことで、利用者を取りまく関係職種との連携においては、役割や情報連携方法について具体的に検討できるようになった。

③その他の成果

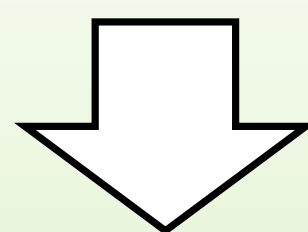
災害に対する意識向上、実際の避難行動に対するイメージトレーニングが可能、準備すべき物品の明確化、利用者と訪問看護師の連携促進、被災時の観察ポイントの明確化、訪問看護師の発災以後の活動の在り方と限界の明確化等が認められた。

結語 今後は実際に利用者に提示し、実行可能性を検討する。また訪問看護ステーションの災害対策マニュアルのえ改訂に反映させる。更に、本支援計画書を基に他機関と連携し、地域の災害時支援体制の整備の促進を図ることが重要である。

表2. 個別支援計画の地震発生時期と検討・判断する事項（裏面）

発生時期	項目
【災害発生時】	①安全な場所に移動 ②火災の確認 ③あなたの怪我の有無 ④震度の程度の確認
【避難行動】	⑤一次避難所への移動
【一時避難所での活動】	⑥避難生活を送る準備をする ⑦家族や知人に連絡する ⑧あなたの健康状態に変わったところはないか ⑨電気・水道・ガスが止まっても生活できるか
【二次避難所の検討】	⑩二次避難所は倒壊しておらず生活できるか ⑪自宅に移動することが出来るか
【二次避難所での避難生活】	二次避難所の決定、実施、完了

災害時個別支援計画書



利用者

災害時の判断や対応の決定
↓
訪問看護師との共有
↓
被災時の動きや予防対策を具体的に検討
↓
看護計画に反映

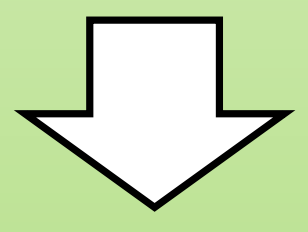
訪問看護ステーション

訪問優先順位の決定
↓
運営方法の明確化
↓
事業継続計画（BCP）への反映

個々への対応の明確化
↓
関係職種との役割や情報連携方法の具体化

その他

災害に対する意識向上
避難行動のイメージトレーニング
準備物品の明確化
防災意識の向上
安全確保時の観察ポイントの明確化
活動のあり方の限界と明確化



利用者と訪問看護師の連携促進

BCPへの反映

地域連携の促進

図1. 個別支援計画により得られる成果